

Ⅱ 事業の概要

法人

(理事会機能の充実)

近年、少子化や経済情勢等の影響を受け、私立学校を取り巻く環境は厳しさを増している。特に大学では2018年問題を来年に迎え一層の厳しさが見込まれている。共愛学園ではこのような状況下であって、様々な課題に対して主体的、機動的に対応できるよう次の事業を行った。

1 ガバナンスについて

本学園のガバナンスの在り方を探求するための一環として、役員、評議員及び事務局員等を対象に次の研修会を実施した。

- ・ 2016年7月15日(金)に研修会を開催した。2016年度より新しく共愛学園に誕生した、幼保連携型認定こども園の開園と小学校開校の状況について、白石こども園園長並びに大川学園長(小学校長)より報告があり、その後に質疑応答が行われた。
- ・ 2017年2月24日(金)に研修会を開催した。吉武博通筑波大学教授を講師に招いて、監事の教学監査について説明を受け、その後質疑応答が行われた。なお、この研修会には新島学園の湯浅理事長以下7名の職員が参加した。

2 実効性のある中期経営計画の策定

こども園から大学までの各部門に学童クラブを加えた6部門について、5ヶ年(2017~2021年度)中期経営計画書を作成して、2016年11月25日開催の本理事会及び2017年1月27日開催の評議員会へ諮り、審議・承認された。

なお、2016年度より中期経営シートを作成して、計画を可視化するなど分かり易くしたが、2017年度からは計画期間を3ヶ年に改め、計画の実質化をより図ることとする。

3 各部門の経営会議(委員会)の充実

「中学・高校財政問題検討委員会」、「小学校企画運営委員会」、「こども園企画運営委員会」、「学童クラブ企画運営委員会」をそれぞれ月1回開催し機能させている。いずれの委員会も理事長が議長となり、それぞれの部門の役職者と本部事務局職員が委員となって諸課題に対応し、生徒・園児の確保、財政の安定及び施設設備の充実などに一定の成果を上げている。

なお、大学の場合には、理事長は事務局長や総務課長とともに学長室会議(議長は学長)へ出席して意見を述べるほか、教授会、企画運営会議などにも参加している。

(学園小史の編纂)

各部門の代表からなる執筆委員会が2016年度中に4回開催され、執筆者の分担も決まって作業は順調に進められている。構成案は次のとおりとすることが確認された。

- ・ (口絵)：口絵のみカラーとするが本文中の写真は白黒とする。

- ・(第1部 共愛学園100年の歩み)：主に写真において1886年度から1998年度の110年間について取り上げる
- ・(第2部 共愛学園が100年以降の歩み)：文章のみではなく写真を交え、「事項」と「解説」を並べて読み易くする。
- ・(第3部 共愛学園略年表)
- ・(第4部 共愛学園の現況)：外郭団体の組織図及び責任者の寄稿文により編集する。
- ・(第5部 対談)：理事長、学園長、副学園長による対談とし、司会を宮崎名誉教授とする。
- ・(編集後記)

(小学校開校について)

創立130周年記念事業のメインである小学校設置は、2016年3月18日付けで群馬県知事より認可され、同3月26日に250名余りの参列者のもと開校・献堂式を挙行し、同4月8日に第1期生52名を迎えて入学式を挙行することができた。これにより、共愛学園はこども園から大学までを擁する県内で最初の総合学園となった。

2017年度入学の第2期生51名を迎え、現在は第1期生と合わせた102名の児童が新しい校舎で元気よく学んでいる。

(中学・高校第二体育館の竣工)

この体育館は、第1体育館と学寮(双葉寮)の間に建設された。2016年3月に定礎式を挙行し、工事は順調に進んで同年11月30日に献堂式を挙行することができた。

2階部分で既存の第1体育館と渡り廊下でつなぎ、外に出ることなく往来ができる構造になっている。現在は体育の授業や剣道部を中心とする部活動などで使用されている。

(大学礼拝堂・事務棟の建設)

大学では2016年度中に、学部・学科の増設またはコースの見直しなどについて検討を重ねてきた。その結果、ここ数年の間に申請することになる教職課程の再認定の関係から、当面は学部・学科の再編等は見送り、その後に改めて学科再編等について検討することになった。一方、本年6月に30名の定員増を申請して、2018年度から255名の入学定員とすることの方向が確認された。

このような方向性が定まったことから、礼拝堂兼事務棟建設の準備に入り、ここ2、3年のうちには着工したい。このための積み立ては2016年度末で3億8000万円となっており、予定のとおり建設費5億円とすれば、2017年度(5,000万円計上)と2018年度の積立金や、130周年募金から繰入れにより、資金的には問題がないものと見込まれる。

(学園創立130周年記念事業募金)

募金については、「130周年記念事業募金委員会」を2016年度中に3回開催し、事業や各外郭団

体等募金の進捗状況の報告・確認を行った。

各団体等の分担目標額と実績（2017年3月31日現在）は次のとおり。

（単位：千円）

	団体区分		目標額	実績額
1	学園同窓会	中高同窓会	30,000	30,424
2	中高ベタニア会	保護者会	40,000	23,308
3	賛助会		20,000	33,454
4	大学グレープバイン	大学同窓会	30,000	10,611
5	大学シオン会	大学保護者会	30,000	14,400
6	こども園カナノ会	こども園保護者会	4,000	3,272
7	一般（教会、保育園保護者、 学童クラブ保護者、一般）		1,000	5,389
8	役員・教職員		15,000	12,801
9	学園バザーより		15,000	9,000
10	小学校保護者会		15,000	750
	計		200,000	143,408

（スクールバスの運行開始）

共愛学園で最初の試みであったが、2016年度からの小学校の開校もあって、交通の利便性に欠け、またニーズも高いとされた伊勢崎南・本庄方面にスクールバスを運行させた。運行を群馬中央バスに委託し、職員1名が添乗員として乗車した。乗車の対象は小学校児童、中学・高校生徒、大学学生であるが、主に児童と生徒が利用している。

（小中及び高大接続会議の設定）

小学校の第1期生保護者から、早くも小学校卒業後の進路とそれまでの指導について質問が上がったこともあり、先ず小中の接続会議（座長 平田副学園長）を設けた。小学校は基本的に共愛学園中学校への入学を前提としているが、このための小学校と中学校の教育内容について審議を開始した。

また、高大接続会議（座長 大川学園長）は、本学園大学への入学を希望する生徒の高校教育について、また、大学入学後に学力を向上させ、希望する進路に就けるための魅力ある大学教育について取り組んでいく。

大学

（入学の状況）

特待生制度や奨学金の充実、広報活動、募集活動の積極的な展開などにより、定員以上の学生を

確保することができた。

2016年度 コース別入学概況（入学定員 225 名、編入学定員 5 名）

	国際社会専攻				地域児童 教育専攻	計
	英語	国際	情報経営	人間文化		
応募者	153 (1) 名	165(1) 名	124 (5)名	107 (1) 名	182(0) 名	731(8) 名
合格者	97 (1)	95(0)	67 (1)	68 (1)	104(0)	431(3)
入学者	67 (1)	52(0)	56 (1)	46 (1)	52(0)	273(3)

() 内数値は編入学の内数

(専任教員人事)

2015 年度末に准教授 2 名（文化人類学科目、英語関係科目）が退任したが、後任を 1 名補充（国際関係科目）したので、専任教員は 1 名減の 31 名体制となった。

(専任職員人事)

2016 年度に専任職員 2 名を新規採用したので 22 名体制となった。

(奨学金制度の見直し後の推移)

資格特待生を含む新しい奨学金制度へ 2012 年度から移行した。その新制度の基本的な概要は、資格特待生の適用を 1 年次のみ限定し、新たに「ともさくら奨学金」、「ワークスタディ奨学金」、「コース奨学金」などの奨学金制度を設けたことにある。

移行して 4 年目の 2015 年度からは、全学年に新制度の資格特待制度が適用されたが、次表のとおり資格特待生への奨学金支給額は縮小傾向にある。

年度別の資格特待生と奨学金（参考）

（単位：千円）

年 度	資格特待生	他の奨学金	計	記 事
2011 年度決算	173,250	17,040	190,290	
2012 年度決算	160,850	25,810	186,660	新制度へ移行
2013 年度決算	146,940	30,920	177,870	
2014 年度決算	97,440	48,080	145,520	
2015 年度決算	64,762	49,934	114,696	
2016 年度決算	74,804	50,957	125,761	
2017 年度予算	67,312	67,133	134,445	決算では減額の見通し

なお、新設された奨学金制度は次のとおり。

- a. 共愛学園ともさくら奨学金：経済的困難な学生を支援
- b. 学業奨励奨学金：各学年・各コースの成績最上位者に対する奨学金（原則 20 名）
- c. コース学業奨学金：各コースで定めた成績優秀者等に対する奨学金
- d. ワークスタディ奨学金：学内勤労に対する奨学金

- e. インターンシップ奨学金：学内で専門的業務に従事することで得られる奨学金
- f. プロジェクト支援奨学金：優秀なプロジェクトに対する奨学金
- g. その他これまでの奨学金の継続と内容の一部変更

(グローバル人材育成推進事業（以下「GGJ」）の推進)

2016年度はGGJ事業最終年度（5か年事業）となり、2013年度に開設したGlobal Career Training副専攻（GCT副専攻）、各種海外研修プログラムを充実させ、滞りなく運営することに主眼に置きつつ、次年度以降補助金の無い中での運用について検討した。本事業の目的は地域社会を牽引する「グローバルリーダー」育成であり、求められる主な数値目標は海外留学派遣人数、学生の語学力である。2015年度の海外留学派遣人数は150人であり、2012年度の事業開始時と比べ、約1.6倍（2012年度95人）となった。語学力伸長に関しては、GCT副専攻での英語による授業、ネットを利用した海外講師との語学授業等によりTOEICスコアを伸長させることができた。

なお、次年度以降も本事業で取り組んだ各種プログラムを継続していくことが決定している。

(地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（以下「COC+」）の推進 ※COC事業吸収)

2016年度はCOC+事業2年目（5か年事業）となり、2014年度に採択されたCOC事業により強化した地域志向科目を充実させ、学生の地元意識を高め、地元定着を促すことを本事業の目的としている。地元定着率の10ポイントUPが最終目標であり、就業意識を高める各種インターンシップの充実もカリキュラムの特徴となっている。また、地元定着率を高めるためには自治体、企業等との関係強化も重要であり、協働機関コンソーシアム「C3PG」を発足させ、協力体制を引いている。

なお、本事業は高崎商科大学、上武大学、明治学院大学と連携して事業に取り組んでいる。

※2014年度に採択された「地（知）の拠点整備事業（COC）」は本事業の一部に組込まれた

(大学教育再生加速プログラム（以下「AP」）の推進)

2016年度はAP事業3年目（5か年事業）であり、学生の学修成果を記録・保存できるポートフォリオシステム（KCG）の実稼働として、教員による学生とのリフレクション等を行い、学修成果の可視化に努めた。また、前年度に引き続き、学生が学生に指導することにより共に学びあう「ライティングピアチューター制度」を運用した。

(地域貢献)

2008年度に設立された地域共生研究センターを核として、地域との共生（連携）を推進するため幅広い活動を行っている。

2016年度中の同センターの活動実績は次のとおり。

【主催・共催事業】

- ・「きょうあい子育てひろば」を企画立案し、3シリーズの他、託児養成講座を実施。
- ・「しぶかわ子育てひろば」（渋川市保健福祉部こども課共催）ファースト・サード 各1回
- ・群馬現代史研究会
- ・生涯学習講座

「総社の原始・古代・中世—古墳から笠塔婆まで—」（前橋市総社公民館）

「パソコンはじめて講座」（前橋市永明公民館・城南公民館共催）

- ・放課後寺子屋（NPO 教育支援協会共催）
- ・テラコッタ教室 講師 本多 正直（本学教授）
- ・「発達心理学」「人間を考える」公開授業
- ・「ジェンダー論」公開授業

【地域連携事業】

○ 委員等派遣

群馬県立大学公立大学法人化検討委員会委員、群馬県男女共同参画推進委員会委員、「教育改革・いせさき未来会議」委員など多数自治体等の委員として教職員を派遣した。

○ 講師等派遣

群馬県子育て支援ネットワーク事業、男女共同参画基本計画策定研究会などに多数教職員を派遣した。

○ 共同研究等

本学共同研究費により「群馬現代史研究会」を年3回開催している。

○ 共催事業

自治体、公民館、社会教育施設、町内会、地域団体等々との共催事業を展開し、地域との連携を深めている。

【ボランティア派遣事業】

前橋市内小中学校、伊勢崎市内小中学校、群馬県青少年会館、NPO 団体などへ学生ボランティア等を派遣している。

（前橋市からの借用地一部購入）

前橋市からの借用地（グラウンド部分・1,269 m²）の一部（800 m²）を1,704万円で購入した。この結果、借用地は残り469 m²となり、現在の鑑定価格で約998万円になる。

（施設設備の整備）

① 3号館トイレ改修工事

年次計画により学内のトイレ改修工事を実施してきましたが、最終年度として3号館1階男女トイレを1879万円で改修した。明るく清潔で機能的なトイレに生まれ変わり学生からも高く評価されている。

② 部室棟外部照明の設置

昨年度実施した防犯カメラならびに外部照明設置工事の二期工事として、部室棟周辺に外部照明3基を140万円で設置しました。一期工事と合わせ安全で安心な環境づくりが進展した。

③ 3号館貯水槽給水ポンプ交換工事

3号館建築時に設置した給水設備が老朽化（20年経過）したため、給水ポンプを84万円で交換した。

④ 浄化槽ポンプ室移設工事

体育館北側にある浄化槽ポンプ建屋の土台が沈下し、運転に支障が生じかねない状況のため、

建屋の移設を 78 万円で実施した。

⑤ 1211 会議室什器更新

短大開学時（1988 年）より利用してきた会議用机・椅子が老朽化したため、128 万円で更新した。

⑥ 図書館入退館システム・アンケート集計システムの設置

授業外学修の主要拠点である図書館の利用状況や学生による各種アンケート結果を把握・検証し、多角的に学修到達度を可視化することで、学生が主体的に学修を改善し、また自ら学ぶべきことに興味・関心を持ち主体的に学びに参加しているかを把握するため、私大等教育研究活性化設備整備事業を活用し、図書館入退館システム、アンケート集計システムを 1,499 万円で導入した。

⑦ 交流センター整備

今年度開所した交流センターであるが、GGJ 事業の進展に伴い、交換留学生が増加する見込みであることから、150 万円で居室の増室ならびに備品を整備した。

(進路の状況)

・ 2016 年度卒業生の進路状況は次のとおりです。

就職者	188 名
就職未定者	2
その他	37
進学者	4
計	231 名

就職率 98.9% (188/190)

・ 就職者の業種別進路と主な企業名

※ () 内は就職者数

業種	人数	主な企業
サービス業	56	東日本旅客鉄道 (2)、日本郵便、JA 赤城橋、JA 甘楽富岡 (2) JA 北群渋川、JA 佐波伊勢崎、JA 高崎市、JA 多野藤岡 (3) JA 新田みどり、JA 前橋市、JA 太田市、 星野リゾート・グループ、エイチ・アイ・エス 草津白根観光ホテル櫻井、高崎ターミナルビル モテキ、関東運輸 (2)、東建コーポレーション 松掘不動産、荒井会計事務所、フライングガーデン あおぞら、NEXUS (3)、あすかインターナショナル メモリード、アークベル、あすからいふ倶楽部 東祥 (2)、合同会社富士デクスターエンターテイメント NPO 教育支援協会北関東、早稲田学習研究会 ぐんま安全教育センター、NIPPON ACADEMY、東学童保育所 サイエイ・インターナショナル、ささざわ歯科 恵愛堂病院、長谷川ホールディングス、子持山福祉会 ナーミングホームあい、社会福祉法人イースターヴィレッジ

		シムックス、ディップ、群馬総合ガードシステム 奈良農場、特定非営利活動法人地球緑化センター ワタキューセイモア、スターキャリア
官公庁	2	高崎市役所、前橋市役所
教職員	12	群馬県公立小学校 (4)、群馬県公立中学校 (2) 横浜市公立小学校、神奈川県公立小学校、埼玉県公立小学校 共愛小学校、群馬大学教育学部附属小学校 高崎健康福祉大学高崎高等学校
金融業	10	群馬銀行、しののめ信用金庫、高崎信用金庫 アイオー信用金庫、北群馬信用金庫、あかぎ信用組合 SMBC 日興証券、あいおいニッセイ同和損保 ニュートンフィナンシャルコンサルティング JR 東日本労働組合高崎地方本部
建設業	14	大和ハウス工業、佐田建設、群馬セキスイハイム (2) 群馬グランディハウス、一条工務店群馬 (2) タマホーム、ミタカ工房、司建設、双和電業 トヨタホーム北関東、電通建設、末広産業
商社	13	リコージャパン (2)、岩瀬産業、太田物産、栗原医療器械店 群馬日産ディーゼル&ロジスティクス、トヨタ部品群馬共販 久保田商事、ツルタのタネ、イードア、小泉 ロッキーマウンテンモリタ、大木理工機材
情報通信業	26	ジーシーシー、システム・アルファ (2)、日本情報産業 上毎印刷工業、モテコ出版、エクスコムグローバル コンピュータロン (2)、マクロ、ナブアシスト 高崎共同計算センター (2)、マーキュリー (2) 総合PR、ハートランドデータ、DUSE、V スマートテック オー・エス・ティ、かあちゃんのまごころ (3)、クレス サイネックス、読売旅行
製造業	14	山岸製作所、田村屋、高千代酒造、高橋ベルト マニタ機工、ビット、シロテックス、三条印刷、東邦工業 プロダクト、新協和産業、第一電機 国産機械、矢島工業
流通・小売業	41	群馬トヨタ自動車 (3)、GN ホールディングス (3) トヨタカローラ群馬、ネットトヨタ群馬、富士スバル 日産プリンス群馬販売、ホンダカーズ高崎 群馬ダイハツ自動車、ネットトヨタ高崎 ガリバーインターナショナル (2)、ハンユウオート クスリのマルエ、ベイシア (3)、As-me エステール ファイブフォックス、ハンプティードンパティ

		富士情報通信、フレッセイ (2)、ファームドウ (2) 群馬ビーエス、クリエイト・エス・ディー、スギ薬局 ヨドバシカメラ、イーグルリテイリング、ジョイフル本田 エキップ、日本テレメッセージ、アシスト伊田繊維、千雅 兼松コミュニケーションズ
計	188 名	

高 校

(人事について)

退職、休職等

- ・ 2016 年度末教諭 1 名定年延長修了退職
- ・ 2016 年度末専任講師 1 名退職
- ・ 2016 年度末非常勤講師 1 名定年退職
- ・ 2016 年度末非常勤講師 3 名退職

採用、復職、異動等

- ・ 専任教諭 2 名の非常勤講師への任用替
- ・ 非常勤講師 3 名の専任講師への任用替
- ・ 非常勤講師 1 名の専任講師への年度途中の任用替
- ・ 外国人教師 1 名の年度途中採用
- ・ 高校教諭 1 名の、専任講師 1 名の中学への異動
- ・ 中学教諭 1 名の高校への異動
- ・ 養護教諭 1 名の採用
- ・ 専任講師 1 名の採用
- ・ 産休代用専任講師 1 名の年度途中の採用
- ・ 非常勤講師 10 名の採用

・ 教 員

年度	専任教諭	専任講師	助教諭	左の計	非常勤講師
2012	45	15	—	60	20
2013	44	15	—	59	22
2014	45	17	—	62	25
2015	44	14	—	58	31
2016	41	17	1	59	29

・ 職 員

年度	専任職員	パート職員	学寮職員	計
2012	7	0	4	11
2013	7	0	3	10

2014	7	0	3	10
2015	7	0	3	10
2016	7	0	3	10

(生徒確保と入学の状況)

2015年度に比べ応募者が約30名程減少したが、定員の360名を超える379名の入学者を確保することができた。

入学概況（入学定員360名）

	普通科		英語科		計
	特進コース	進学コース	特進コース	進学コース	
定員	230名		130名		360名
応募者	916 (50)		304 (47)		1,220 (97)
合格者	267 (11)	584 (39)	156 (20)	134 (27)	1,141 (97)
入学者	36 (11)	201 (39)	49 (20)	93 (27)	379 (97)

※ カッコ内は共愛中学出身者の内数。

(特別奨学生制度の充実)

すべての入試に特別奨学生制度が適用されることを周知し、学業優秀者・スポーツ等優秀者の両面から意欲のある生徒を確保し、より活力のある学校づくりを目指した。

特別奨学生は定期的（学年末）に学業成績や部活動の様子など継続審査が行われ、年度の途中や年度末に資格を失う場合もある。

過去5年間の特別奨学生の入学実績は下記のとおりである。

	特別奨学生S		特別奨学生A		特別奨学生B		特別奨学生C		特別奨学生D		計
	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	
2012年度	0	—	8	4	4	—	9	7	4	—	36
2013年度	0	—	6	9	2	—	7	8	0	—	32
2014年度	2	—	4	12	1	—	8	10	2	—	39
2015年度	—	—	4	13	6	—	10	15	1	—	49
2016年度	—	—	7	13	3	—	14	9	7	—	53

(進路の状況)

昨年度と比較すると4年生大学への進学者が7ポイント増加した。旧帝大や私学の難関校 慶應義塾大学にも合格者を出すことができた。

今後も、国公立大学や難関私立大学への合格者数を増やすこと（出口）が、中高生徒の確保（入口）に繋がるために、より一層学習指導や進学指導に力を入れていきたい。

区分	人数	合格先(国公立大学)
大学	205名	お茶の水大(1)、群馬大(2)、岡山大(1)、信州大(1)、群馬健康科学

	(70%)	大(1)、群馬県立女子大(6)、高崎経済大(4)
短大	28(8%)	
専門学校	69(21%)	
留学予定	5	
就職	9	
浪人・その他	19	
計	335名	

(施設・設備の充実)

① 第二体育館（栄光館）完成

130周年記念事業の一つとして建築された。11月に献堂式を行い、主に剣道部や体育の授業で使用している。

② 無線LANの設置及びタブレットの導入

校内の無線LAN環境整備の第二段として校舎棟の無線LAN中継局の設置とタブレット(iPad Air2)を60台導入した。これによりアクティブラーニング授業やリクルート提供のスタディアプリがより使いやすくなった。

③ 小礼拝堂タブレット制御システム導入

従来の映写室で行う作業を手元のタブレットで操作できるシステムを導入した。これにより、演者がわざわざ教室後方にある映写室に行って操作する必要がなくなった。

④ 展示ケースの設置

バザー収益金でトロフィーや盾などの展示用ショーケースを礼拝堂入口に設置した。礼拝堂などで行われるオープンキャンパスなどの行事の際、来場者に見ていただけるようになった。

⑤ 絵画の設置

国画会会員の安富信也画伯が国立新美術館の第90回記念国展に出展した大作「ヨハネの黙示録」を寄贈いただいた。校舎棟4階から礼拝堂2階へ行く連絡通路正面に展示し大変豊かな空間となった。毎朝、生徒は礼拝に行くときに拝観している。

⑥ ワンボックスカーの納車

10人乗りハイエースを購入。荷台が広く人数が多く乗れるため、部活動の遠征等で利用している。

中 学

(人事について)

退職、休職等

- ・2016年度末非常勤講師1名退職

採用、異動等

- ・高校教諭1名、専任講師1名の中学への異動
- ・中学教諭1名の高校への異動
- ・産休代用専任講師1名の年度途中の採用

- ・非常勤講師 1 名の採用

年度	専任教諭	専任講師	助教諭	左の計	非常勤講師
2012	7	6	1	14	11
2013	9	4	1	14	9
2014	9	4	1	14	7
2015	9	4	1	14	10
2016	9	4	1	14	4

(入学の状況)

2015 年度と比較すると 16 名の出願者減となったが、入学者は 10 名増となった。対象年齢人口激減期にある中学は今後、定員確保が課題となった。

入学概況（入学定員 100 名）

	第 1 回入試		第 2 回	第 3 回	計
	推薦	一般	一般	一般	
応募者	35	62	6	13	116
合格者	34	48	4	4	90
入学者	34	42	2	4	82

(進路の状況)

卒業者数 98 名中、共愛学園高校へ内部進学した生徒は 95 名、他校へ進学した生徒は 3 名である。

年度	卒業者数	内部進学者数	外部進学者数						計
			県内 国公立	県内 私立	県外 公立	県外 私立	海外 留学	その他	
2012	87	77	6	0	1	1	2	0	10
2013	105	87	10	4	0	2	2	0	18
2014	94	87	3	3	0	0	0	1	7
2015	104	97	3	1	0	3	0	0	7
2016	98	95	2	1	0	0	0	0	3

小学校

(人事について)

開校初年度は、専任教諭 6 名（校長、教頭、養護を含む）、専任講師 1 名、兼務教員 3 名、専任職員 3 名（用務 2 名含む）、派遣職員 1 名、栄養士 1 名の職教職員をもってスタートした。

・教 員

年度	専任教諭	専任講師	兼務教員	左の計	非常勤講師
2016	6	1	3	10	1
2017	9	2	3	14	1
2018					
2019					
2020					

※学校基本調査に基づき 小学校教諭免許のないタープストラ先生は専任講師とする。

・職 員

年度	専任職員	派遣職員	栄養士	計
2016	3	1	1	5
2017	3	1	1	5
2018				
2019				
2020				

(入試・入学の状況)

開校初年度（2016年度）第1期生の入試・入学状況は次のとおりである。

入学概況（入学定員 60名）

	第1回	第2回	第3回	計
応募者	45	19	6	70
合格者	42	14	4	60
入学者	39	9	4	52

(施設・設備の充実)

① 校舎と校庭間の芝具張り

竣工時には、1階前テラスと校庭との間約2m幅には、敷物が何もなく土のみの空間となっていたが、この部分に芝生を植えることにより風塵等の防止対策を図った。

② 教務システム

中高の教務システムと同じく合理化と充実を図るためのソフトウェアを導入した。

③ 礼拝堂の備品

設置経費に計上していなかったプレイズホール（礼拝堂）ステージの講壇等備品を、2016年度予算において取得した。

こども園

(園児数及び学級数)

5月1日現在(カッコは年度末)

年齢	園児数			学級数	職員数	備考
	3号認定児					
0歳	4(22)			1	5	
1歳	25(25)			2	5	
2歳	31(31)			2	6	
合計	60(78)					
	1号認定児	2号認定児	計			
3歳	27(26)	29(32)	56(58)	4	6	
4歳	26(26)	32(34)	58(60)	2	4	
5歳	25(24)	31(33)	56(57)	2	4	
合計	78(76)	92(99)	170(175)	13	30	

総合計：230名(253名)

(職員数)

旧幼稚園と保育園が一体となり誕生した、認定こども園の初年度職員数は次のとおりである。

年度	園長	副園長	主幹	保育教諭	看護師	栄養士	調理師	事務員	合計
2016	1	1	1	37	2	1	3	1	47
2017									
2018									
2019									

(課外活動)

旧幼稚園で実施していた課外活動をこども園へ引き継いだもので、申込者等の概要は次のとおり。

	サッカー・ 体操教室	児童英語 クラブ	くるみクラブ
申込者数	50名	49名	約300名(延べ人数)
講師	本大学学生	本大学教員・学生	石田・高田・菊池
開催日数	44回	10日	35日

(施設設備の整備)

大きな修繕等を行わなかった。

学童クラブ

(児童の確保)

2016年度は開所して6年目にあたる。人材や施設など総合学園として共愛学園の特色を活かした保育活動を展開し、地域社会からも高い評価が得て児童は順調に確保されている。

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
児童数	17名	25名	33名	37名	39名	39名

(施設設備の整備)

備品の取得や修繕等はなかった。